

『よみがえる神武天皇』

牧村 健志

戦後の古代史では、魏志倭人伝を中心とする中国史書と考古学を重視し、日本書紀、古事記は低く見てきた。しかし、国家を挙げて編纂された日本書紀が、現在の学者が言うような、伝承と作為に基づく信頼できない史書であろうか？

本書では、日本書紀を解くカギとして「春秋2倍暦仮説」の有効性を示し、これまで荒唐無稽といわれてきた日本書紀の年表を、シンプルなルールに基づいて細部まで修正した。これによって神武東征は弥生中期、崇神天皇は纏向遺跡出現時に合致し、新しい新紀年表は現実感のある編年となる。

日本書紀と考古学が車の両輪として使えるようになることで、「稲作と神道」を柱にした「大和の国建国」の真の姿を、初めて明らかにすることになったと自負している。

PHP研究 2,500円（税別）

